

まんさく



第九回鳴滝祭 開催される

鳴滝祭実行委員長 藤原綾子

五月十二・十三日の二日間にわたり、第九回鳴滝祭が開催されました。今年は、第九回を「ナイン」で表してこの鳴滝祭に足を運んでくださったすべての人たちが、リズムを刻んでしまうくらいノリノリで楽しんでもらいたいという気持ちを込めて、「もう止まらナインすう!!このノリYO!!第九回鳴滝祭」というテーマにしました。子どもからお年寄りの方まで楽しんでいただけるように、様々なイベントを考えました。心配していた天候にも恵まれ、二日間とも青空の下で鳴滝祭を開催することができました。きつと鳴滝祭に向けて頑張ってきた私たちの努力が報われたのではないかと思います。

一日目は新見ウインドアンサンブル、ボランテニア部、ダンス部、クラス対抗のイベントなどがメインステージを盛り上げてくれました。二日目は、ピフオー☆アフター、豪華景品をかけたビンゴ大会などが行われ、多くの方々に楽しんでいただきました。そして一番の目玉である吉本興業



発行 新見公立短期大学（岡山県新見市西方一二六三の二） ☎〇八六七―七二―〇六三四

編集 学報編集委員会



お笑いライブでは、「笑い飯」「千鳥」「アジアン」を迎え、大反響を得ました。そして二日間にわたり「ミスター&ミス新短」を決めるミスコンやカラオケ、学友会、各学科、部活動による模擬店や展示、チャリティバザーも素晴らしい賑わいを見せました。

今回の鳴滝祭を行うにあたって、地域の方々、教職員の方々、後援会の皆様、他大学の方々など、多くの方にご支援・ご協力いただきました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。また実行委員のみんな、毎日遅くまで残ったの準備ご苦労様でした。頼りない私を最後まで支えてくれて本当に感謝しています。みんなの協力のおかげで無事に鳴滝祭を終えることができました。ありがとうございます。第十回鳴滝祭の成功を願っています。



最近、AED（自動除細動器）が、駅や空港、学校、企業等に設置されるようになりました。救命活動においてAEDがその効果を最大限に発

保健委員会 掛屋純子

AED講習会を開催して



揮するためには、実際の講習が必要だと言われています。そこで、四月二十五日、新見消防署の消防士の方々に講師に招き、新入生を対象にグループに分かれてAED講習会を行いました。水泳中、あるいはジョギング中に倒れた場合など様々な設定のもと、発見からAEDの使用までの演習を行いました。学生からは、「今までに心肺蘇生の仕方を教わる機会がなかったので勉強になった」「冷静さを保ち、周りの人の協力を得ることが大切だと感じた」「状況を考えながら素早い処置ができるようになればいいと思う」等の感想がきかれました。今回は、一度に全学科を対象として行ったため、グループ全員での体験ができないという反省点もありましたので、反省を生かしながら次年度も意義ある講習会になるように努めたいと思います。

学友会執行部より

学友会会長 山本 忍

皆さんこんにちは。私たち学友会執行部は、各学科二年生十三名、一年生七名の計二十名の役員で活動しています。私たちは、学生交流会・スポーツ大会・球技大会・クリスマス会などの行事の企画、運営を中心に鳴滝祭での実行委員のサポートや年に二回ある定例総会の運営を行っています。

四月の学生交流会では、新入生に楽しんでもらうと学友会執行部で協力し、試行錯誤しながら企画をしました。当日は、私たちの準備不足で行き届かない点が多々あり、迷惑をかけてしまったこともありましたが、しかし、天候にも恵まれ、カレー作りやレクリエーションなど各学年・学科だけでなく、他学年・学科や先生方と交流を深めることができ充実した時間を過ごせたのではないかと思います。最後に新入生の皆さんに「ありがとうございます」と声をかけていただいたことがとても嬉しかったです。

五月のスポーツ大会では、どのチームも仲間と協力し合い、一団となって取り組んでいました。にぎやかな声が体育館中に響き渡り、大変盛り上がりました。鳴滝祭の翌日とハードなスケジュールだったにもかかわらず、多くの方に参加していただきとても感謝しています。ありがとうございました。

今後の行事としては、十二月に球技大会・クリスマス会を予定しています。私たち一同力を合わせて頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願います。



地域看護学専攻科

第四期生十六名を迎えました！

専攻科に入学して

菊井愛美

私は臨床で約一年間働いたあとに入学しました。新見で生活を始めて、日々課題に追われている気がしますが、不思議と学校生活は苦ではありません。「保健師になる」という夢を叶えるための一年が始まりましたが、両親の支えがあったからこそ今に至れたと思うので、感謝しながら毎日を過ごさなければと思っています。クラスは十六人と少なく最初は不安もありましたが、今は家族のような温かい雰囲気、居心地の良さを感じています。様々な場所から集まり、それぞれ違った経歴のある友達と多くの話ができることは、今の私にとって良い刺激となっています。夢を叶えられるように頑張っています。勉強をし、さらに仲間と素敵な想い出をたくさん作りたいと思います。

中川亜由美

私は高校の衛生看護科専攻科を卒業し、本校に入学しました。新見での新しい生活には戸惑いや不安もありましたが、先生もクラスみんなも優しく、だんだんと生活にも慣れてきました。忙しい生活の中でも充実感を感じ、楽しく毎日を送っています。もうすぐ実習も始まり、期待や不安もありますが、みんなで協

力して乗り越えていきたいと思えます。そして、一年後には今よりもっと成長した自分でいられるように頑張っていきたいと思っています。

大岡純子

私は本学看護学科を卒業してこの専攻科に入学してきました。今年の入学生は、北は北海道から南は沖縄と全国各地から入学しています。また、臨床経験をもっている人もいて現場の話を聴くことが出来てとても勉強になっています。十六人と少ない人数ですが、その分すぐに全員とも仲良くなれ楽しく学生生活を送っています。すでにたくさんの課題が出ていて、四苦八苦している部分もありますが、みんなで協力しあっているところが片付けているところだと思います。一年間という短い期間ですが、クラス全員で勉強や実習を乗り越えて、保健師という夢に向かって頑張っていきたいと思っています。



幼児教育学科

「にのみごどもフェスタ」と「ごどもフェスタ」に参加して

二年次生 植村ゆうみ

私は、舞台美術という立場で「はなさかじいさん」の制作にかかりました。子どもフェスタを終えて、まず一番に思い浮かぶのは、大変だったけど楽しかったという思いです。もともと物を作ることは好きなので、自分のアイデアを生かすことのできる舞台美術の仕事は私にとって楽しいものでした。他のメンバーと意見を出し合いながら舞台で映えるようにと考えて作っていると、時間はあつという間に過ぎました。連日残りながらの作業は体力的にも辛かったです。美術メンバーだけでなく出演や音響の人たちも手伝ってくれたことが本当に励みになりました。また、それぞれの係が入り混じった中で、出演、音響の人たちの思いを聞くことができたことも良かったと思います。

舞台美術は「舞台を支える」という役割でしたが、目に見えないところで大勢の人たちがこんなにも努力しているということを知ることができました。本番で桜が咲いて「すごい」といつてもらえた時の感動も大きかったです。自分が作った小道具が全体練習で初めて使われたときの感動も忘れられません。小道具を

生かしてくれた出演、音響の人たちへの気持ちをこれからも大切にもっていたいと思います。

今回の子どもフェスタを通して、私は人と協力して一つのものを作り上げるということを学びました。たくさんの人たちと一緒に活動をするためには、意見のぶつかり合いや様々な葛藤を乗り越えなければなりませんでしたが、自分の思いを理解してもらいたい、相手の思いを理解したいという気持ちで取り組んだことで、今まであまり話をしていなかったクラスメイトとも交流が持てました。このことは、子ども、その保護者の方々、さらに職場の仲間と信頼関係を築くために、必要となることだと思っています。

他人を理解することは難しいことですが、相手の気持ちを想像し、受け入れようとするのを学ぶことができました。



新任教員挨拶
「はじめまして」

講師 新藤 慶

四月から「教育学総論」や「保育原理」など教育学関係の講義を担当しております。出身は埼玉県ですがこの三月まで十一年間北海道に住んでおりました。久しぶりの本州生活ですが、体がすっかり北海道に慣れてしまっているのです。梅雨時の湿気や真夏の猛暑が心配です。

こちらに赴任して驚いたことは、学生の皆さんがとても「大人」だということ。多くが高校卒業後一年程度の方々ばかりなのに、専門職として社会に貢献するという責務を自覚し、周囲に対する配慮や適切な対応ができるだけの力を身につけていると感じました。

このことは、これまでの先生方のご指導や職員の方々のご支援の賜物であると思いますが、それとともに、同窓生の皆さまが培ってこられた「新短」のよき文化が確実に受け継がれていることの表れであるとも感じました。

このよき文化を育む新見公立短期大学にお世話になれることを、とても光栄に思います。力不足ゆえ何かとご面倒をおかけいたしますが、よろしくお願ひ申し上げます。

講師 芝崎美和

桜舞う四月、幼児教育学科の教員として本学に赴任してきたときのことを今でも覚えています。廊下には歌

声が響きわたり、ダンスやピアノの練習に励む学生の姿がこちらこちらに見られました。時間を忘れて熱心に課題に取り組むその真摯な姿に教員としての気持ちを新たにしました。

あれから数ヶ月、教員の熱意や意欲は、「学びたい」という学生の強い思いによって支えられていることを身をもって実感しております。

さて、緑豊かな本学では、自然に心を癒されることが少なくありません。柔らかな桜色から鮮やかな若葉色へと変わりゆく山の様子に心を和ませ、満天の星空から明日への活力をもらうこともあります。

本年は、カメムシの多さから厳しい冬が予測されるようですが、学生に負けないくらいにエネルギーで乗り越えていきたいと思えます。教育にも、研究にも、妥協することなく邁進していきたいと思えますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



絵・中本 歩

看護学科

新科目・授業紹介 「医療情報」

宇野文夫

大規模病院を中心に、電子カルテが導入されるなど、近年の医療現場における情報化の進展には著しいものがあります。そこで、二〇〇五年度のカリキュラム改定で、新たに医療情報A・B・Cの三科目（いずれも専門基礎科目）を開講しました。

医療情報Aでは、本学教員二名に加えて医療情報学の専門家（岡山大学教授）を非常勤講師としてお招きし、コンピュータとネットワークの仕組み、医療情報の標準化や電子カルテシステム、倫理等について学びます。Bでは、表計算ソフトの使用法を中心に、看護研究等で行うデータ集計、グラフ作成、ワープロと表計算との連携を、本学教員二名に民間のコンピュータインストラクター二名が加わり、学生ごとの進度に合わせて、きめ細かく指導します。Cでは、看護研究発表会や学会発表を想定し、情報機器を用いたプレゼンテーション技術について学びます。

○六年度入学生からは、高等学校における情報教育が必修になったことに伴い、入学時には、ある程度のスキルを身に付けた学生が増えていきます。将来は、アンケートや健康情報の表計算ソフトを用いた集計法な

ど、看護分野に専門化した教材を工夫することや、実際に教育用電子カルテシステムを用いた演習などを実施したいと考えています。

「看護研究発表会」 に示説を取り入れて

一十五期卒業生・専攻科

石田佳世・勝俣暁子

平成十八年十一月二十七・二十八日、私たちにとって初めての看護研究発表が無事終わりました。発表方法は、口演と示説の二つです。初日は、私たち二十五期生から新たに導入された示説発表があり、聴衆者は四つのブースで次々に行われる発表に足を運んでいました。示説発表では、聴衆者が興味を持った研究を聞き、実物を展示できるなどの利点があります。また、気軽に発表者に質問できることから、意見交換や情報交換を活発に行うことができました。



研究は、自分のやりたいことを見つけ、一年間という長い時間をかけて取り組んできました。その成果を合計七分間で伝えなければなりません。そのためにまず、発表前にそれぞれ自分の研究の自己PRを行いました。二分間で聴衆者に興味をもってもらう必要があるため、自分がなぜこの研究に取り組んできたのか、どういう面白い結果が出ているかなど端的に伝えることに苦労しました。そして、発表は五分間です。この短い時間で、聴衆者に目と耳で理解してもらうためには発表に使用するポスターが重要になってくると感じました。また、発表では聴衆者との距離が近い緊張しましたが、その分、聴衆者の反応を感じながら、発表することができました。さらに質問時間が長く取ってあるので、五分間で伝えきれなかったことを詳しく説明できたり、聴衆者からの感想を直接聞くことができました。発表者にとっても聴衆者にとっても充実した発表会になったと思います。

今回の発表を通して、口演と示説の両方を学び、研究内容に応じて選択し、どちらも活用できるようにしていきたいです。



絵・松田早苗

新任教員の紹介

看護学科 中山亜弓



はじめまして。四月から基礎看護学を担当しています。かれこれ十年程前に、私もこの

短大で看護を学びました。今再び教員として戻ってくるのができ、本当に嬉しく思っています。

短大を卒業後、兵庫県立大学に編入し、その後、倉敷の病院と訪問看護で経験をつんで現在に至っています。経験の中で常に考えていたことは、病気や障害を持つ人にその人らしい生活を送ってもらうために、自分ができることは何か、でした。またその人が自分らしく生活するためにはどんな援助が必要なのかを、対象者と一緒に考え、選択していました。「いま できること」を考え、行動することが私のキーワードです。自分が動かないことには、周りは何も変わりません。失敗しても、いつか訪れる成功に向けてチャレンジするのみです。こんなことを言っていますが私も勉強中で、教員という新たなスタートラインに立つたばかりです。たくさんのお出会いと出来事があります。まずは、ゆっくり立ち止まって、自分にできそうなことを探してみましよう。周りにはあなたを支えてくれる人がきつと傍にいます。私もおの一人になりたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

地域福祉学科

音を通して五感を動かす
「音の文化論」

吉村淳子

地域福祉学科には、「音の文化論」という講義があり、その中では音に関わるさまざまな取り組みが試みられています。二つほど紹介します。

先日、新見市にある旧料亭「松葉」という明治期の建築物を学生たちと訪ねました。そこでは、階段のきしむ音や窓にあたる風の音があり、さらに今は聞くことのできない当時の「にぎわい」までも聞こえるようです。また、畳の匂いや低い天井、大正時代のガラスから差し込む光などから、そこに「在る」時間を超えた音を五感すべてで感じ取ることができるのです。

また、日本を代表する篠笛奏者である朱鷺たたらさんの日本の音についての講義では目前で息づかいを感じながら笛の音色を聞き、日本の音に触れることができます。そして、日本のリズムを身体で表現しながら、音の文化について学ぶことができるのです。

このような試みを通して、一人ひとりの高齢者が聞き重ねてきた「音」をどう読み解くのか考え、その人の持つ「音の文化」を把握することが、高齢者を理解する上で重要な視点であることを学んでいく講義です。



これからの
学業への意気込み

一年次生 池田和輝

新見公立短期大学に入学して、早二ヶ月が経とうとしています。短大生活への期待と不安を胸に入学式を迎えました。その日は、ずっと緊張の連続でした。

その一週間後の土曜日に、学生交流会があり、班でカレーを作ったり、体育館では学友会の先輩方が企画されたゲームをして、クラスはもちろんのこと、他学科の人・先輩方と楽しく交流を深めることができました。五月には、大学祭・スポーツ大会とあり、行事を通してより深くクラスとの友達や先輩方と親睦を深めることができました。

入学して最初の講義では、大学での一コマの講義時間が高校までとは違い九十分なので、最初は長いなと

感じていましたが、今ではその環境にも慣れ、少しずつ集中して講義が聴ける様になりました。これから介護福祉士の資格取得に向けて、一コマ一コマの講義を集中して聴き、介護・福祉について学んでいきたいと思っています。そして他の人にはない私の特技でもある演歌を通して利用者さんとコミュニケーションがとれる介護福祉士になれるように、この二年間を有意義にそして毎日が明るく楽しく生活を送れる様にしていきたいと思っています。

理解する心を学びたい

二年次生 藤田琴江

二年次になり、二ヶ月が過ぎようとしています。講義や演習の内容も一年次に学んだことを踏まえた、より専門的なものになってきました。現在も「形態別介護技術Ⅰ」で利用者さんの状態にあった入浴介助の方法についてグループワークで取り組んでいます。その中で各々意見を出し合い、さらなる知識と技術の向上を目指しています。

介護を学ぶ上で大切なことはその人が生きてきた歴史や文化を理解することです。一年次の時にはただ知識や技術を吸収することに精一杯でそのことの重要性にまで十分目を向けることができませんでした。しかし一段階の実習を終え、利用者さん一人ひとりと向き合い理解することの大切さ、また難しさを知りました。

母校自慢

第6回

＊岡山県立津山東高等学校

永久不滅の熱い魂

一年次生 小椋梨花

私は津山東高校の普通科体育コースに在籍していました。このコースでは他の高校では体験できない様々な行事がありました。四十二キロという道のりを自分に負けず、クラスの仲間と走りきるチャレンジ・フルマラソンや、ダンスと旗の二部構成の作品を自分たちで創り上げ発表するマステージムなどを通して、先輩・後輩の上下関係や挨拶の大切さ、マナー等を学ぶことができました。他にも養護学校実習などから福祉への理解や思いやりの心を身につけることができました。

しかしこんな素晴らしい体育コースも今年から体育分野となり、様々な行事もなくなってしまうかもしれません。これはとても残念なことです。私の心の中で永遠に体育コースは残っています。私は東高に行って、体育コースに入ってよかったと心から思っています。

六月からの二段階実習に向けて知識や技術を高めるのはもちろんのこと、身体面や心理面に配慮した、より充実したケアができるよう頑張ってください。

同窓会のコーナー

「頑張っています」

地域福祉学科八期生 柴原麻実



四月下旬、「卒業生と語る会」参加のため卒業してから三年ぶりに新短へ行きました。とても懐かしく、もう学生ではないんだなあと実感しました。就職して四年目に入り、仕事にだいぶ慣れてはきましたが、当初私はすぐに壁にぶち当たりました。本当は利用者の方と落ち着いてコミュニケーションを図りたいのに、現実では業務に追われ、ゆつくり話す時間もありませんでした。もう辞めたいと思い、松本先生に相談すると、「自分と同じ考えを持っている仲間を見つけてごらん」と言われました。実際そんな仲間を見つけていくと、一人の力では何もできなかったことが、二人、三人と増えると、少しずつですが、職場の中心を変えていくことができきました。一人で悩まず、まずは信頼している人に相談することが大事だと感じています。

幼児教育学科第二十四期生

山本沙織(旧姓掛)

短大を卒業してから早くも三年目になりました。地元に戻らず就職をしました。今は仕事にも慣れてきました。今は仕事に加え、結婚、妊娠と公私共にあわただしい毎日過ごしています。

仕事では相変わらず他の先生方に助けていただくことも多いですが、楽しんで幼稚園生活を過ごすことができるようになってきました。まだまだ日々反省する点、勉強不足な点は多くありますが、子どもたちの笑顔からパワーをもらいながらがんばっています。

先日、引越しの時、短大の時に書いたレポートが出てきました。読み返してみると、自分がこんなに色々と考えていたことに思わず感心してしまいました。そして新鮮な気持ちにさせられました。「初心忘るべからず」で、これからも子どもたちと真剣に向き合っていきたいと思えます。



絵・渡部倫子

看護学科第十八期生
同窓会開催

松崎尊恵



平成十九年三月二日、看護学科第十八期生の七名が新見短大に集まりました。卒業してから早七年という月日が経ちました。看護の世界で共に活躍する友人や、母親となり日々の子育てを楽しんでいる友人と再会し心温まるひとときを過ごすことができました。

さらに学生時代同様にまるで家族のように先生方が迎えてくださり、大変感激しました。改めて新見短大という存在の大きさ、私たちの『心の故郷』を実感しました。全国で頑張っている第十八期生の皆さんお元気ですか。また、近い日にお会いできることを楽しみにしています。

看護学科第二十四期生
同窓会開催

小山千沙

平成十九年三月十日・十一日に看護学科第二十四期生の同窓会を行いました。あいにくの雨でしたが、二十七名の卒業生と四名の先生が参加し、久々の再会に話しまくりに、食べまくりの大盛況でした。進学してまだ学生の人も、もうすぐ看護師二年目になる人も、それぞれに頑張っています。今回参加できなかった人も、また集まってわいわい騒ぎましょう。

それでは、また次に会う日まで皆元気に頑張ります。



在籍者数

2007.5.31 現在

	看護学科	幼児教育学科	地域福祉学科	地域看護学専攻科	計
1年次生	63	53	50	16	185
2年次生	66	53	54	-	170
3年次生	59	-	-	-	59
計	188	106	104	16	414

出身都道府県別在学生数

2007.5.31 現在

府県	看護学科			幼児教育学科		地域福祉学科		地域看護学専攻科	合計
	1年	2年	3年	1年	2年	1年	2年		
北海道	1							1	2
茨城県				1					1
千葉県						1			1
神奈川県	1	1							2
新潟県		1							1
富山県	2								2
福井県	1			2				1	4
長野県							1		1
岐阜県					1				1
静岡県				1				1	2
愛知県		1							1
滋賀県			1			1			2
京都府		2				1	1	1	5
大阪府	1		1			1			3
兵庫県	16	27	13	5	7	9	7	3	87
和歌山県	2				2		1		5
鳥取県	4	1	3	3	1	3	3		18
島根県	7	9	4	12	6	13	3	1	55
岡山県	10	4	4	8	5	8	19	4	62
うち新見市	⑦	①	①	④	①	④	⑧		②⑥
広島県	3	3	5	1	3	4	3		22
山口県	2	2	5	2	3	4	5		23
徳島県	1			1	4				6
香川県		2	2		4			1	9
愛媛県	3	5	4	6	9	1	3	1	32
高知県		1	3	1			2		7
福岡県	3		1	1		2		1	8
佐賀県	1			2	1	1			5
長崎県	2	4	1	1		1	1		10
熊本県	1		1	1					3
大分県			4	1	1		2		8
宮崎県		1	2	2	2		1		8
鹿児島県		1	3	1	3		2		10
沖縄県	2	1	2	1	1			1	8
合計	63	66	59	53	53	50	54	16	414

いんてんせつ

〈退職〉

地域福祉学科教授 村中 哲夫
 教養科教授 石田 純郎
 幼児教育学科教授 石橋 由美
 地域福祉学科助教授 岩崎 竹彦
 幼児教育学科助教授 矢藤誠慈郎
 幼児教育学科講師 東 俊一
 看護学科助手 太田 浩子



いんてんせつ

〈新採用〉

幼児教育学科講師 芝崎 美和
 幼児教育学科講師 新藤 亜弓
 看護学科助手 中山 慶
 幼児教育学科教授 田邊 洋
 幼児教育学科教授 高月 教恵
 地域福祉学科教授 原田 信之
 地域福祉学科准教授 山内 昌史
 幼児教育学科助教授 渡部 昌史



お知らせ

平成十九年三月に本学原田信之教授が論文『今昔物語集南都成立と唯識学』（勉強出版刊）で龍谷大学から博士（文学）号を授与されました。記してさらなる研究の進展を祈念いたします。



絵・森田 薫

編集委員

委員長

委員

村岡大上金原
 田本竹山山田
 二直晴和時信
 郎行佳子江之

新入生を迎えて、あつという間に時間が過ぎて、まんさくを発行する時期になりました。本年も一八五名の入学生を迎えることができ、活気に満ち溢れています。五月恒例の大学祭も終え、学生の力を結集したものととなりました。

ここで、トピックスを二つお伝えいたします。一つは、一号館のなりに「学術交流センター」という地域に開かれた図書館が建設中です。連日、金属音が鳴り響いており、日に日に外観が完成していく様子は目を見張るものがあります。年内の完成を楽しみにしています。皆様には、次号でお知らせすることができると幸いです。

二つめは、大学法人化に向けて現在準備中です。厳しい時代の中ではありますが、よりよい教育を学生に教授できるように、教職員が一丸となりさらなる努力をしていきたいと思っております。

(金山)

